椎葉小学校
学校だより

みんなわになれ

令和５年２月１５日(水)
第25号（Ｒ４第11号）
文責　校長　鮫島　良樹

ＪＡ「ごはん・お米とわたし」作文コンクール

「金賞」

お米を未来へ

五年　玄場　禾乙

わたしは、家族で行くキャンプが毎回楽しみです。キャンプでは、いつも当たり前にあるものを自分たちで準備していきます。例えば、飯盒でたくこともそうです。いつもは、すい飯器のスイッチをおすと勝手にたき上がりますが、飯盒でたくと火加げんを調節したり、時間を計ったりしなくてはいけません。そうして手間をかけてたけたお米を食べると、家族で「おいしいね。今回もうまくたけたね。」と夕食がいつも以上にもり上がります。わたしにとって、お米は一番身近な食べ物です。

わたしの小学校では、一年間を通して米作りの体験をしていました。田植えの時には、どろどろの田んぼに入り、みんなで力を合わせてなえを植えていきます。稲刈りでは、固い田んぼに入って、かまで稲を刈っていきます。田植えも稲刈りもこしを曲げてたくさんの量を手作業するのはとても大変だと思いました。わたしの住んでいる椎葉村では、お米を作っている人がたくさんいます。田植えから稲刈りまでの約五か月間毎日田んぼの様子を見に行って水の量を調節したり、草取りや草刈りをしたりしているそうです。わたしは、大変だなあと思って働いているのを見ていますが、働いている人は楽しそうに米作りについてのことを話しています。作る人の心がこもった食べ物を食べているわたしたちは、笑顔でいられるのだと思います。

最近は、お米の消費量が少なくなっているそうです。つまりお米を食べる人がへっているということです。そこで、お米の良さについて調べてみました。お米には、のうや体のエネルギーになる炭水化物などの栄養素があります。炭水化物が不足すると、体がつかれやすくなったり、一つのことに集中できなくなってしまうそうです。わたしたち子どもは勉強したり、運動したり、遊んだりして過ごしています。 だから、お米を食べないと、わたしたちはいろいろな場面で自分の力を発きできないということです。お米は昔から他の食品にも変えることができます。例えば、せんべい、だんご、米油、しょうちゅうなどがあり、いろいろな食の楽しみ方ができるのも、お米のよさだと思います。最近では、お米を使った食べ物以外の商品もあります。お米を使った、クレヨンやつみき、ねん土などがあり、小さい子どもが口に入れても安心できる商品となっているそうです。わたしは、たくさんの人にこのような商品を通してお米に親しんでほしい、お米をもっと好きになって食べてほしいというお米を作る人たちの気持ちがこめられていると思います。

ＳＤＧＳでは、「つくる責任つかう責任」として、持続可能な生産消費形態を確保するという目標があります。食の大切さや地球の未来についてもっと勉強して、自分でできることを実行していきたいです。

受賞おめでとう！

まだ結果待ちもありますが、椎葉小学校の子ども達や先生達が対外的なコンクールで優秀と認められ、賞を獲得しています。とても嬉しいことですね。皆さんにも喜びを分かち合いたいと思います。

＊県文集「ともだち」作品掲載

３年　那須　春仁　「牛のびょう気を予防する」
４年　那須　奏来　「がんばりたいこと」

※　作品がまだ返却されていませんので、後日ホームページで紹介します。

＊村人権作品コンクール

１年　富士本　佑月［硬筆の部　優秀賞］
３年　那須　智貴　［標語の部　奨励賞］
「うれしいな　やさしいことば　ありがとう」
６年　椎葉　花南　［標語の部　優秀賞］
「たったそれだけのことなんて　思わないで」

※　１８日（土）生涯学習フェスティバルで表彰された後、応募作品はカテリエに展示されます。

＊村教育研究論文審査

玄場恵梨教諭［教育長賞］
「考え、主体的に学び合う児童の育成～国語科学習における読む力を高める指導の充実を通して～」
中俣英明教諭［教育委員奨励賞］
「自ら学びに向かう児童の育成～児童の学びを支えるＩＣＴの効果的な活用を通して～」

※　３年間で１度以上は論文審査に応募することになっています。指導力を高めるために、先生達は日々の実践を大切にしています。

＊「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰
椎葉小学校＋椎葉村地域学校協働本部

“「かえりたい『郷』で生きていく。」ことを目指した文化伝承の取組～子供が椎葉をまるごと理解し、生涯にわたってかかわり続けようとする姿を目指して”

※　「子供は宝」そして子ども達が通う学校や先生達をしっかり支えようという風土が、椎葉村は昔から大切に受け継がれています。受賞は、遅ればせながら然るべきの結果だと受け止めています。今後も子ども達の健やかな成長のために、協働していきましょう。

標語募集中、ふるってご応募ください。

先日、村内すべての保育所・小中学校の保護者の皆様へ、村のＰＴＡ連絡協議会から「村内子育て世帯総ぐるみで取り組む情報化社会への対応について」と題した啓発文書が発出されました。これからは、スマホやタブレット等の通信端末に振り回されるのではなく、いかに使っていくかが問われるデジタル・シティズンシップの時代です。通信端末は、諸刃の剣とも言われます。買い与えるだけでなく、幼い頃からきちんと使用の際に自己コントロールができるよう教えていきましょう。また、通信端末にのめり込まないよう、家族とのふれ合いや運動・趣味などに関わる機会・時間を大切にしていきましょう。親子で標語を考えて、応募してみませんか。